

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新告知

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2017.7 Vol.30

平成29年 7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 静岡県浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

「鮎釣村御普請場絵図」—— ①

■図書館散歩

本の中で旅をすること —— ②

芸術文化学科長 教授
梅田 英春

活字と私 —— ③

文化・芸術研究センター長
デザイン学科 教授
峯 郁郎

■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト) —— ④

■巻末

図書館ニュース —— ⑤



「鮎釣村御普請場絵図」

文政十一年子七月

差出 大嶺村名主佐太夫、組頭権兵衛、百姓代基左衛門

宛所 中泉御役所

[静岡文化芸術大学蔵 和田文庫]

今回は、当館和田文庫所蔵の絵図「鮎釣村御普請場絵図」をご紹介します。絵図には文政十一年子七月との年紀があります。この年の干支は戊子で、西暦1828年です。鮎釣村は、現在の浜松市天竜区龍山町大嶺地区に当たります。天竜川が迂曲して近くを流れ、現在もバス停留所や集会所に「鮎釣」の名が残っています。絵図の差出人の佐太夫は名主和田家の屋号で、宛所の中泉御役所は幕府の出先機関である中泉代官所のことです。

「暴れ天竜」の名で知られるように、天竜川はかつて大変な荒れ川、暴れ川でした。鮎釣村を含め、天竜川流域では、暴れ天竜のもたらす水害に悩まされていました。この水害を防ぐべく実施された公費による河川の治水工事が「御普請」で、工事箇所に指定された場所は「普請場」と呼ばれました。

この絵図は当時の鮎釣村を描いたものですが、よく見ると「〇〇宅流出」「欠」といった記載が多数あります。この絵図が描かれた文政11年は春季から雨が多く、6月20日頃から連日雨が降り続き、6月30日には稀有の大雨に見舞われました。このため、天竜川筋では短時間のうちに各所で氾濫して、甚大な被害をもたらしました。鮎釣村に近い大嶺村西川の和田家でも、鴨居に水が着いたほどだったそうです。

治水工事が進み、流域にはダムが建設され、現在は穏やかに流れる天竜川ですが、絵図はかつて「暴れ天竜」が鮎釣村にもたらした被害を後世に伝えています。

参考文献

- ・龍山村村史編纂委員会[編]『龍山村史』龍山村、1980。[092.1/Ta 95]
- ・静岡県[編]『自然災害誌』(静岡県史別編2) 静岡県、1996。[092.1/Sh 947/B-2]

■本稿の執筆に当たっては、元・本学文化政策学部教授で静岡県立大学名誉教授の須田悦生先生より貴重な教示を頂戴しました。記して謝意を表します。



芸術文化学科長 教授
梅田 英春
Umeda Hideharu

本文中に登場した資料

トーマ・ヤンソン[作・絵]
『ムーミンパパの思い出』
993.61/J 23/3

堀辰雄[著]
『風立ちぬ;美しい村』
913.6/H 87

北杜夫[著]
『どくとるマンボウ航海記』
914.6/Ki 61

司馬遼太郎[著]
『街道をゆく』
918.68/Sh 15

B・マリノフスキ[著]
『西太平洋の遠洋航海者』
081/Ko 191/1985

レヴィ=ストロース[著]
『悲しき熱帯』
389/L 57/1-2

鶴見祐輔[著]
『南洋遊記』
292/Ts 85

遅塚麗水[著]
『南洋に遊びて』
292/C 49

徳川義親[著]
『じゃがたら紀行』
292/To 36

金子光晴[著]
『マレー蘭印紀行』
292/Ka 53

Colin McPhee
"A house in Bali"
292.4/Ma 23

P.ラビノー[著]
『異文化の理解:
モロッコのフィールドワークから』
389.434/R 11

梅田英春[著]
『バリ島ワヤン夢うつつ:
影絵人形芝居修業記』
777.8/U 64

本の中で旅をすること

子どもの頃、毎年のように母に連れられて旅をした。といっても生まれ育った東京を離れ、自然豊かな場所で非日常的気分を味わうような優雅な旅でなく、中学受験のために地理や歴史を学ぶスタディーツアーだった。だからなのか、当時、僕は自由な旅に憧れた。親元から離れて、たった一人で「無計画な計画」のもとで見知らぬ地へ向かう旅を夢みた。ヤンソンの『ムーミンパパの思い出』の中で、孤児院を飛び出て大海原に旅立ち、旅をするムーミンパパの姿こそが僕の理想だった。自分とは真逆の存在であるからこそ、僕はこの中に出てくる「自由人の冒険家」という言葉に心を揺さぶられた。漠然とではあるけれど、いつかはそんな旅をしてみたいと思った。

そんな時、母と弟とともに夏の八ヶ岳の高原地帯にいったことがあった。今思えばただの里山の風景だったのかもしれないが、僕には、白樺の木立やこれまで感じたことのないような涼風、緑の香りがどれもこれも新鮮だった。どうやったらこれを文章にすることができるだろうと、原稿用紙の前でさまざまな試みに挑戦してはみるものの、どれももうまくはいかなかった。小学生にはとても手におえなかった。

堀辰雄の小説に出会ったのは中学に入ってからだ。『風立ちぬ』や『美しい村』の中に描かれた八ヶ岳の自然を描いた表現を通して、文章は五感をくすぐる力があることを始めて知った。視覚に訴えかける精緻な風景描写は無論のこと、木々のざわめく音や風の香りまでを感じることができた。はじめて文章の力に畏敬の念を抱いた。それからというもの、僕は本を通して海や山を「旅」し続けた。北杜夫『どくとるマンボウ航海記』は痛快だったし、司馬遼太郎『街道をゆく』のシリーズを通して国内はもとより世界中をわがもののように闊歩した。読めば読むほど、自分もいつか旅を綴りたいという思いが募った。

音楽学を志した大学時代、僕が最初に旅した本は、マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』、そしてレヴィ=ストロース『悲しき熱帯』である。文化人類学の授業で学び、すぐに帰り道の古本屋で買った記憶がある。結局、僕は二人の著者の旅——人類学者の調査と旅の違いを僕は明確に区別することが未だにできずにいるのだが——の記録に圧倒され、とうとう遠い海外でフィールドワークを行う学問を専攻してしまうことになる。漠然とではあるが、「自由人の冒険家」になることをあきらめることができなかったのだろう。

インドネシアのバリ島の音楽研究を志してから、戦前の南洋を旅した日本人の紀行文を読み始めた。当時の本のぬくもりが恋しくて毎週のように神保町の古書店や古書市を巡った。当時はインターネットもない時代で、自分の足で歩いて本を見つける以外に方法はなかった。戦前の紀行文の中でも特に鶴見祐輔『南洋遊記』、遅塚麗水『南洋に遊びて』、徳川義親『じゃがたら紀行』、金子光晴『マレー蘭印紀行』の中に描かれた南洋のさまざまな風景、文化を目の当たりにして、僕は東南アジアに向かう気持ちを抑えられなくなってしまったのだった。

24歳でインドネシア、バリに留学したとき、すでに自分が何かを記す——旅日記、紀行文、民族誌などそんな名称はどうでもよかった——と決めていた。旅をすることは文字に書きとめることなのだ、と一寸の疑いもなく信じ切っていたのだと思う。僕はとにかく日々の記録を書き続けた。膨大な手紙も日本に送った。今思えば、どこか紀行作家気分だったのかもしれない。そんな南国で読んだ2冊の「旅」の本がある。1冊は初めて読破した洋書Colin McPheeの *A House in Bali* で、作曲家であるマクフィーが1930年代にバリに住み、バリの伝統音楽を学び、復興する姿を描いたエッセーである。マクフィーを自分に見立て、「僕も1980年代のマクフィーになるんだ」と意気込んでいた時代が懐かしい。もう1冊がラビノー『異文化の理解——モロッコのフィールドワークから』。この本から学んだことは、民族誌でありながら著者が一人称として登場する手法だった。当時、僕は「文化を書く」ことが文化人類学にとって大きな問題になっていたことなど全く知らなかったし、ましてやラビノーの本が「一人称民族誌」の初期の傑作であることなど知る由もなかった。この本を読んだことを機に、自分の文章の手法が大きく変わっていった。その後、僕が留学時代を『バリ島ワヤン夢うつつ——影絵人形芝居修業記』として出版したのは、長いインドネシアでの留学から戻って20年以上経過後からである。

今なお僕は本を通して旅を続けているし、自身も東京から始まりバリ、沖縄、オランダ、浜松と転々と旅を続けている。友人は僕のことを回遊魚だという。止まってしまったら生きていけないのだと。だから僕は体が移動できない時間も書物を通して「旅」をし続ける。それはきっと「生きる」ためである。



文化・芸術研究センター長
デザイン学科 教授

峯 郁郎

Mine Ikuro

本文中に登場した資料

岡田栄造[編]

『海外でデザインを仕事にする:
世界の果てまで広がるフィールド』
757.021/O 38

小川理子[著]

『音の記憶、技術と心をつなげる』
916/O 24

クリス・アンダーソン[著]

『TED talks:
スーパープレゼンを学ぶTED公式ガイド』
809.2/A 46

福島令子[著]

『わたしの手袋博物館』
383.4/F 84

梅棹忠夫[著]

『梅棹忠夫のことば:
wisdom for the future』
289.1/U 73

活字と私

幼い頃から絵を描いたりモノを作ったりの日々を過ごして来た私にとって、読書に費やしてきた時間は皆さんに比べて著しく少ないと思われます。いろいろな意味で人生の疑似体験をさせてくれる読書に魅力を感じたのは結構後になってからのことでした。私にとって書籍の大部分は画集やデザイン作品集などのビジュアル、ピクチャーものでした。脱サラ後に商業デザイナーをしていた伯父の家にはそういった本が溢れていて、小学生だった頃の訪問時はTVやゲーム(もちろんアナログ、トランプやダイヤモンドゲーム等)よりも有意義な環境でした。その頃出会ったブッシュピンススタジオのグラフィック作品やルオー、クリムト、ダリ、ユトリロ、ロダンやブルデル・・・文字情報よりは視覚情報に夢中だったように記憶しています。中学生の頃から近視の眼鏡を必需品としていますが、40歳を過ぎてだんだん近くが見づらくなって来た頃、あれほどスッキリ見えた年代にもっと活字に親しんでおけば良かったかも?と感じたものです。高校生の頃は安部公房がイメージネーションを刺激してくれて不思議な世界を楽しんでいた時期もありましたが、やはり活字から画像を妄想するような関係だったように思います。そんな私も読む時はそれなりに夢中になって時間を過ごしてしまうのですが、最近出会った本を主に、ここで共有させていただきたい書物を字数の許す範囲でご紹介します。

『海外でデザインを仕事にする』(学芸出版社)

この本が伝えているすばらしさはリアリティ!しかも副題にある通り、世界の果てまで広がるフィールドで体験談を紹介している点です。デザインの力が果たす役割は時代と共に変容、拡大し、それは先進国に限ったことでもなければ、途上国が単に先進国を真似ている訳でもないという状況を生き生きと伝えてくれています。出張+αレベルを越えない私の貧しい海外経験では、これまで学生たちからの相談に対して曖昧な回答をしていたかも知れないと感じました。この本のおかげで今後は自信を持って、海外に出て行こうとする学生の背中を押してあげられるような気がしています。

『音の記憶』(文芸春秋)

なんと!ジャズピアニストとパナソニック役員という二足のわらじを履いて活躍する女性のお話です。タイトルにもあるように、彼女を支えるバックグラウンドに音の記憶があります。実は私自身も幼い頃からの音の記憶が今の仕事に繋がっていると感じていますので、とても共感し、一気に読み進んでいました。どこにでも有るような会社員と会社組織との関係、予期せぬ方針転換、異動、挫折・・・等々もお約束のように書かれていますが、彼女の場合はやや特別で、その恵まれた能力、人脈、チャンス、更にそれらを活かす努力としなやかさがあって、とても勇気を授かるストーリーでした。

『TED talks』(日経BP社)

これはスーパープレゼンテーションを学ぶTEDの公式ガイドで、もちろんクリス・アンダーソン著です。Tはテクノロジー、Eはエンターテインメント、Dはデザインを表わしています。2015年より、TEDイベントをローカルで展開するTEDx(テデックスと読みます)の浜松バージョンの開催に参画しています。年に1度のスタンダードイベントをTED本部からライセンスを取得して催していき、今年は3度目のプレゼンイベントを同じく本学講堂にて開催します。デザインを学ぶ学生たちはもとより、文化政策学部で学ぶ学生たちにとってもさまざまな場面でプレゼンテーションを行なう機会があるでしょう。この本はTEDで行なわれているプレゼンイベントの基本からツール、準備、本番、考察と流れ、あのスーパープレゼンテーションが実現するまでの舞台裏を余すところなく丁寧に紹介しています。ネットにアップされ続けているすばらしいトークを鑑賞しながら読み進めることをお勧めします。

『わたしの手袋博物館』(暮らしの手帖社)

デザイナーとしても尊敬する大先輩のお一人、福島令子さんの情熱あふれる手袋にまつわる本です。長年手と手袋について研究を重ねられ、鎌倉に手袋専門店を開店後、10年の節目に本にまとめられました。私のような素人には防寒、ファッション、作業用あたりが想像の届く範囲で、この本で紹介されている歴史の重さや地域性、機能性、素材への取組等々は明らかに文化を今に伝えるストーリーの数々です。美しいカラー写真に半分のページを割いていらっしゃることも、人の身体に密接な道具としての価値を分かり易く伝えて下さっています。

『梅棹忠夫のことば』(河出書房新社)(本学赴任前から愛読)

編著者の小長谷有紀さんが冒頭で梅棹忠夫氏を「知の巨人」と形容されています。とても的確な表現と感心しつつ、その「知」は世界中を自身で歩き廻って得た情報に彼の知性、感性が掛け算されたモノであることが読み取れます。心打たれる名言を集めた良書も数多く出版されている中で、梅棹忠夫のことばには毒と薬が絶妙にブレンドされたような独特の力を持っているところが稀有な書と感じます。日頃学生たちに「現状を簡単に受け入れてしまっただけでは思考が停止してしまう」という話をします。この本に共感して得た言葉です。

知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト)

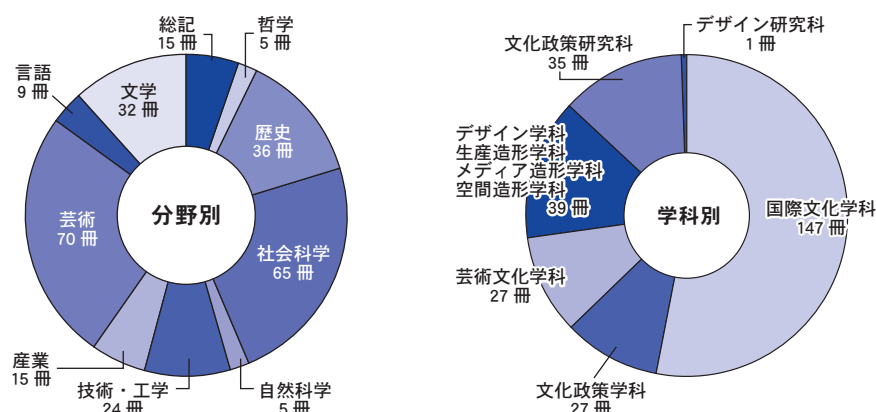
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか?

そのような時は、学生購入希望(リクエスト)を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書(3枚綴)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。

★学生購入希望(リクエスト)について

- ・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。・平成28年度は6～7ページ掲載の276冊を受け入れました。
 - ・絶版や品切れとなっている図書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、購入できないこともあります。
 - ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。・既にセンター内に所蔵している図書は購入できません。
- その他、学生購入希望の申込についてわからないことがありましたら、カウンターでご相談ください。

■平成28年度の購入実績



学生購入希望(リクエスト)で購入した図書のご紹介

『図書館ノート： 沖縄から「図書館の自由」を考える』

山口真也[著]
教育史料出版会，2016.8
[O10.1/Y 24]



「図書館の自由」という言葉からみなさんは何を連想しますか。この言葉から有川浩さん原作の『図書館戦争』を連想する人も多いのではないのでしょうか。

1954年に採択された「図書館の自由に関する宣言」では、図書館が資料収集の自由・資料提供の自由を有すること、利用者の秘密を守ること、全ての検閲に反対することを明言しています。これらは普段図書館を利用している私たちにとって当たり前であり、当然守られるべきものと思っていました。

しかし、現代においても時々この宣言を揺るがしかねないニュースが飛び交っています。例えば、島根県松江市の学校図書館で『はだしのゲン』が教員の許可を得なければ読むことができないとした教育委員会の決定です。この件について筆者は「目録を使う習慣のない子どもたちにとっては、書架にない本はその図書館には存在しない本である。また、閲覧を制限することで、子どもたちに『悪い本』だという先入観を与えてしまう恐れもある」と述べています。

そして、なぜ「沖縄」から「図書館の自由」を考えるのでしょうか。沖縄の図書館は、図書館先進国アメリカの影響を受けているといわれています。沖縄県の学校司書配置率は日本一です。それは戦後のアメリカによる占領のおかげと言われます。しかし、日本の中でも経済的に厳しいといわれる県でありながら図書館サービスを充実させたのは、沖縄県の図書館司書の方たちの努力があったからこそです。そして、日本で唯一の地上戦を経験した県だからこそ伝えていかなければいけない歴史があります。そこで、沖縄の学校では平和教育があります。残虐ともいえる写真も展示されますが、年々児童・生徒にとって「怖いもの見たさ」のようになってきているそうです。つまり、正しく資料が生きていないのです。これでは、松江市のように「残虐」という理由だけで資料が撤収されても、だれも声をあげなくなってしまうかもしれません。本書はタイトル通り沖縄県から「図書館の自由」とはなにかを問いかけています。図書館に興味がある人、そして図書館を利用するすべての人にぜひ読んでほしいです。

【文化政策学部 文化政策学科 3年 村松 咲歩】

『Storyteller portfolio : デザインを伝える、ポートフォリオの作り方』

吉田康成 [著]
文化学園文化出版局, 2014.9
[589.2/Y 86]



大学生活も3年目を迎え、新たに行動を起こさねばならぬと一念発起し、まずはポートフォリオの制作に着手しました。しかし、一体どのようにしてポートフォリオを作ればいいのか。そもそもポートフォリオとは何なのか。始めた途端に壁にぶち当たりました。鬱屈とした気持ちのまま、図書館で参考になりそうな書籍やネットの記事を読み漁っている内に、この書籍を知り、購入申請に至りました。

本書は、主にファッションの分野におけるデザインを伝えるためのポートフォリオ作りについて解説した本です。目に見えない“思い”を見える“デザイン”に落とし込み、自分らしく表現するためにはどうすればいいのか。豊富な実例をもとに、わかりやすく解説しています。

本を開いてはじめて思ったことは、「えっ、こんなことしていいの?」です。実例として紹介されているポートフォリオの写真を見ると、ページに服の素材をそのまま貼りつけてあったり、鉛筆で描き殴ったようなラフ案がいくつも並んでいたりします。現在ではインターネットで他人の作品を簡単に検索できるようになりました。ポートフォリオもその一つです。ネットで見ることのできる作品集は、どれもこれも美しく整っていて、才能に溢れているように感じます。しかし、本書に紹介される例のような、デザインに至るまでの不完全な過程を前面に押し出したポートフォリオは新鮮かつ印象的に頭の中に残りました。筆者が“モノ語り”と形容する、制作者の“思い”が、見る人間にしっかりと伝わってくるポートフォリオでした。

前述のように、本書はファッションの分野におけるポートフォリオ作りを解説したものです。しかし、その内容はその他のデザインの根幹にも通じるものだと思います。また、多くの写真やフォントを使い個性を放つ本書は、ポートフォリオという一冊の本を作ろうと考える私に対し、良い刺激を与えてくれた本でもあります。ポートフォリオ作りに行き詰ったときや、コンセプトが上手くまとまらなかったときに、是非お勧めしたい一冊です。

【デザイン学部 デザイン学科 3年 大久保 冴華】

『そこに音楽があった : 楽都仙台と東日本大震災』

梶山寿子 [著]
文藝春秋企画出版部, 2016.10
[369.31/Ka 23]



2016年11月、修士論文の調査のために仙台市役所を訪問した際、市職員の方からこの本を手渡されました。「市が著者に依頼して書いてもらったものです。」と説明を受けました。その事実だけで、仙台市が仙台フィルに対する支援をはじめとした文化政策に自信を持っていることがわかりました。また、仙台市の奥山市長の「行政の長として、『人はパンのみにて生きる者にあらず』ということを実感しました。」「震災のあとに必要なだったのは、強大な力とか、雄大なビジョンではなく、被災した方々の心に寄り添い、長くつながっていくものとして音楽があるのなら、これまで年3億円もお金を仙台フィルに投下してきた意味もあったかな……そんなふうに考えています。」という言葉から、今後、政府や全国の自治体による芸術に対する支援は、どのような方向性と根拠が求められているのかが見えてきます。

芸術に対する公的支援の根拠を考える時、これまでは、その大半が文化経済学によるものであることに気付くでしょう。日本において、オーケストラに対する公的支援は、1950年に群馬交響楽団に対して、群馬県と高崎市によって行われたものが最初ですが、そのような公的支援の根拠が議論されるのは、1990年代になってからのことです。芸術活動は、政府や自治体、中間支援組織等による支援の根拠に基づいて行われるものではありません。当然のことながら、芸術家による創作活動が先にあります。その創作活動を活発にし、それを住民が親しむためにはどのような支援ができるか、というヒントを本書は提示しています。

私は、演奏家(指揮者)、非営利団体の経営者、民間企業の経営者の3つの立場をもとに、日本のオーケストラに対する公的支援制度の研究をしています。芸術支援について関心のある皆さんには、本学で学ぶ理論だけでなく、様々な視点を持ち、芸術家と住民に寄り添う支援とはどういうものかということ、本書から考えていただきたいと思います。

【大学院 文化政策研究科 2年 中原 朋哉】

受入図書一覧

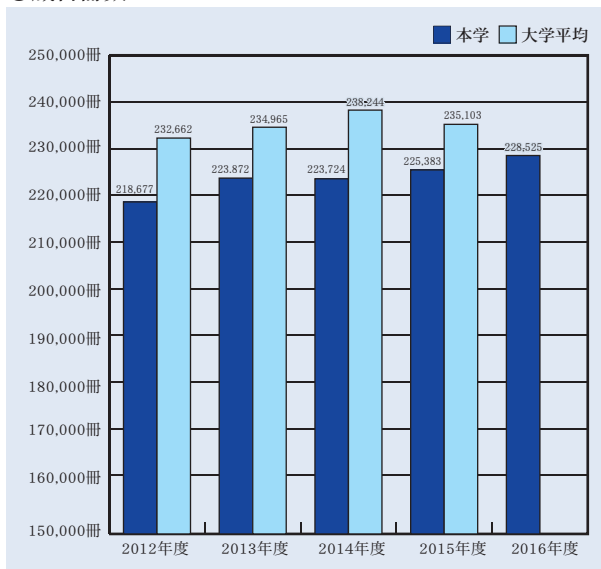
請求記号	書名	請求記号	書名
010.1/Y 24	図書館ノート：沖縄から「図書館の自由」を考える	361.4/B 94	社会的構築主義への招待：言説分析とは何か
022.57/So 12	祖父江慎+コズフィッシュ	361.4/G 36	あなたへの社会構成主義
041/Mo 73	狂気の軌跡：構造論的歴史主義の視座	361.4/O 53	モラトリアム人間の時代 改版
051/N 15	雑誌と読者の近代	361.6/O 59	集合行為論：公共財と集団理論：新装版
070.1/A 62	ジャーナリズム：いま何が問われているか	361.63/W 46	越境する家族社会学
070.16/H 31	新聞記者の処世術	361.63/W 51	ドイツの家族：古代ゲルマンから現代
092.1/Sh 943/S-1	静岡市史〔復刻版〕第1巻～第4巻、別巻	361.7/Ma 35	暮らしの視点からの地方再生：地域と生活の社会学
092.154/Ko 97	維新前後の静岡 第2刷〔再版〕	361/B 28	社会学の使い方
092.154/N 99/1-4	沼津市史 史料編 近世3	366.29/Ka 67	学校・職業・選抜の社会学：高卒就職の日本のメカニズム
092.154/Y 44	静岡の歴史と神話：静岡学問所のはなしを中心に	367.2199/O 52/1	「伝統」へのアプローチ（沖縄ジェンダー学：第1巻）
093.9/N 99	沼津兵学校の研究	367.2199/O 52/2	法・社会・身体制度（沖縄ジェンダー学：第2巻）
104/Y 62	戦後「啓蒙」思想の遺したもの	367.2199/O 52/3	交差するアイデンティティ（沖縄ジェンダー学：第3巻）
159.3/A 41	家族論	367.3/Mo 77	ひとり親の子育て
159/D 93	やり抜く力：人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける	367.6/C 33	Hidden youth and the virtual world
159/N 99	最小限主義。	367.68/Ki 22	学歴社会のローカル・トラック：地方からの大学進学
192.1/Ki 54	戦時下のキリスト教：宗教団体をめぐって	368.2/P 28	貧困の基本形態：社会的紐帯の社会学
209.7/Se 17	国際シンポジウム「世界の被災都市は空襲をどう伝えてきたのか」報告書	369.16/N 71	滞日外国人支援の実践事例から学ぶ多文化ソーシャルワーク
209.74/Se 17	第3回シンポジウム「『無差別爆撃』の転回点	369.31/Ka 23	そこに音楽があった：楽都仙台と東日本大震災
209.74/Se 17	シンポジウム「無差別爆撃の源流」報告書	369.37/L 62	死の内の生命：ヒロシマの生存者
209.74/Se 17	第4回シンポジウム「帝国と空襲 -- イギリス・台湾空襲を検証する」報告書	369.37/Sa 93	原爆被爆者三世代の証言：長崎・広島悲劇を乗り越えて
210.5/Ka 73	近世武士社会の政治構造	369.4/A 26	子どもと貧困の戦後史
210.52/C 67/1	忠臣蔵 第1巻～第6巻	369.4/A 83	子どもの貧困の解決へ
210.58/F 74	豪商たちがつくった幕末・維新	369.4/G 19	子どもの貧困と教育機会の不平等
210.58/H 92	幕末日本のクーデター：錦旗に刻印された官軍の野望	369.4/Ku 34	居場所のない子どもたちへ
210.58/Ki 65	外国人が記録した幕末テロ事件	369.4/Ma 81	子どもの貧困ハンドブック
210.6/Ka 99	日本人が知っておくべき「戦争」の話	369.4/Sh 18	子育て支援が日本を救う
210.61/H 56	幕臣たちは明治維新をどう生きたのか	369.4/Sh 27	地方都市から子どもの貧困をなくす
210.75/O 52	戦争の記憶をどう継承するのか：広島・長崎・沖縄からの提言	369.4/To 72	子ども食堂をつくろう！：人がつながる地域の居場所づくり
210.75/O 58	中小都市空襲	369.41/Sa 82	日本の母子福祉
210.76/Sc 6	占領1945～1952：戦後日本をつくりあげた8人のアメリカ人	371.3/H 21	教育社会学：第三のソリューション
216.4/A 38/1	赤穂市史 第1巻～第7巻、付図	371.3/Ki 24	近代日本の教育機会と社会階層
234.074/W 37	空襲を伝えるドイツの都市 ドレスデン・ベルリン・ハンブルク	371.3/N 71	新教育社会学辞典
234.3/Sc 2	ベルリンのカフェ：黄金の1920年代	371.43/O 88	エピソード教育臨床：生きづらさを描く質的研究
234.6/H 68	ウィーンのカフェ	375.25/N 37	進路選択の過程と構造
236.04/Sh 15	古都トレド異教徒・異民族共存の街	375.893/I 99	フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業
280.4/Ko 39	幕末維新を動かした8人の外国人	376.4/Ka 14	高等学校の社会史：新制高校の「予期せぬ帰結」
289.1/Sa 32	坂本竜馬に学ぶ「仲間をつくる力」	377.9/H 72	新卒採用基準：面接官はここを見ている
291.09/Ts 99	Roadside Japan：珍日本紀行	377.9/Ko 39	広告のやりかたで就活をやってみた。
293.6/P 29	魅力の街トレド	377.9/Ku 76	20歳からの文章塾：ザ・就活ライティング
302.1/W 46	変貌する「企業社会」日本	382.1/Ko 71	考現学入門
304/Y 48	柔らかい個人主義の誕生：消費社会の美学	385.6/N 42	死の文化の比較社会学：「わたしの死」の成立
309.02224/H 92	現代台湾コミュニティ運動の地域社会学	385.6/Se 22	世界の葬送：125の国に見る死者のおくり方
312/Te 36/1	途上国における軍・政治権力・市民社会	386.1/Mu 43	日本の伝統行事
316.8/Ta 69	人種の表象と社会的リアリティ	390.9/Ma 23	世界の軍装図鑑：18世紀～2010年
318.6/D 57/1	田園回帰1%戦略：地元へ人と仕事を取り戻す	484.7/O 57	新編世界イカ類図鑑
318.6/D 57/2	総力取材：人口減少に立ち向かう市町村	493.95/Mi 88	NICUのちいさないのち：新生児集中治療室からのフォトメッセージ
318.6/D 57/3	田園回帰の過去・現在・未来：移住者と創る新しい農山村	493.96/H 38	あの日とっても小さな赤ちゃんに泣いた笑った
318.6/D 57/4	交響する都市と農山村：対流型社会が生まれる	498.54/I 19	賞味期限のウソ：食品ロスはなぜ生まれるのか
318.6/D 57/5	ローカルに生きるソーシャルに働く	498.583/A 49	世界一の美女になるダイエット
318.6/D 57/7	地域文化が若者を育てる：民俗・芸能・食文化のまちづくり	517.57/L 75	水屋・水塚：水防の知恵と住まい
319.8/Se 17	シンポジウム「空襲・戦災を記録する会40年の歴史と今後の展望」報告書	518.8/F 13	イタリアの都市再生
319/Y 19	グローバル社会の国際関係論 新版	518.8/I 89	自治体発の政策革新：景観条例から景観法へ
323.95/Ts 78	パブリック・コメントと参加権	518.8/Ta 43	初学者のための都市工学入門
329.09/B 26/2016	ベーシック条約集 2016年版	519.1/H 54	環境と社会資本の経済評価
331.85/F 44	ウィナー・テイク・オール：「ひとり勝ち」社会の到来	519/C 13	地球の洞察：多文化時代の環境哲学
331.85/F 44	The winner-take-all society	520/N 71/2	台湾建築探訪！：台湾のフジモリ建築
332.06/V 81	ポストフォーティズムの資本主義	523.137/Y 75	横浜赤レンガ倉庫物語
349.3/N 71	地方分権と財政責任	526.67/I 54	インダストリアル・スタイル
361.16/Sa 85	言説分析の可能性：社会学的方法の迷宮から	547.4833/A 31	いちばんやさしいHTML5&CSS3の教本
361.21/A 71/9	家と親子分子 第2版	556.9/Ta 22	大日本帝国海軍全艦艇



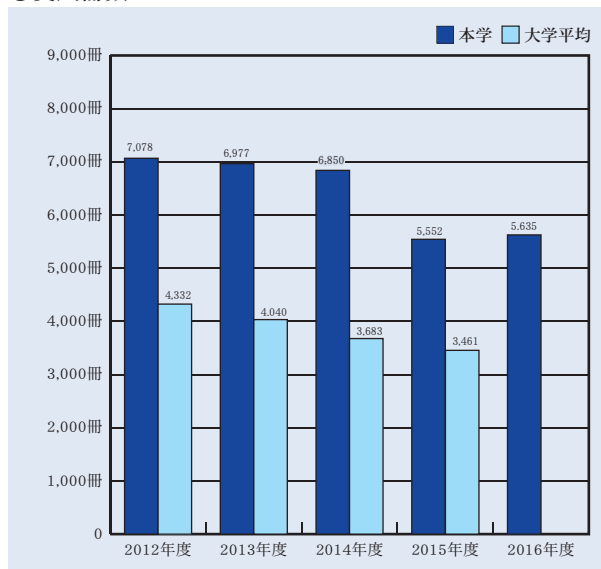
請求記号	書 名	請求記号	書 名
586.78/H 21	Tying up the countermarch loom	727.8/F 72	TrueTypeフォントパーフェクトコレクション：改訂6版
589.2/Y 86	デザインを伝える、ポートフォリオの作り方	727.8/N 93	和文フリーフォント250：豊富な作例ですぐに使いこなせる!
590.4/Mi 44	「何もない部屋」で暮らしたい	727.8/O 84/1	和文フリーフォント集 [正], 続
590/C 31	簡単に暮らせ	727/D 54/1	デジタル背景カタログ1-3
590/Ma 34	持たないていねいな暮らし	727/F 67	装飾パターンの法則：フェドロフ、エッシャー、ペンローズ
590/O 19	ミニマリスト日和	727/G 95/2	ぐるぐるポーズカタログDVD-ROM. 2〜4
590/Y 24	少ない物ですっきり暮らす	750/P 69	インテリア茶箱の世界：美しく暮らすための上質収納
596.7/H 14	北欧とコーヒー	753.3/Mi 95	「織物」用具と使い方
596.7/Ka 48	なるほどコーヒー学：知れば知るほど、おいしくなる	753/C 13	テキスタイルの描きかたと手順がわかる2000 pattern
596/Su 21	ラクする作り置き	757.3/J 72	I don't have a favourite colour
597.04/I 74	スタイルを持ち、身軽に暮らす	760.69/Mi 77	コンサートという文化装置：交響曲とオペラのヨーロッパ近代
597.5/Ta 95	「捨てる！」技術 新装・増補版	761.13/Me 48	Le paradoxe du musicien
597/Ta 95	ミニマリストという生き方	761.9/U 26	オーケストラ指揮者の多面的知性研究
611.3/Su 96	食の戦争：米国の罠に落ちる日本	762.07/O 54	黄昏の調べ：現代音楽の行方
611.9/N 64/42	地域における教育と農	763.99/Ka 99	オルゴールの詩：19世紀の自動演奏装置をきく
611.9/N 64/49	検証・平成の大合併と農山村	763.99/N 47	オルゴールは夢仕掛：目で見えるアンティーク・オルゴール
611.9/N 64/50	市町村合併と村の再編：その歴史的变化と連続性	763.99/Sa 14	浪漫の夢オルゴール
617.3/Ka 97	コンビニコーヒーは、なぜ高級ホテルより美味しいのか	764.3/G 94	群馬交響楽団50年史
619.89/H 36	日本で最初の喫茶店「ブラジル移民の父」がはじめた	764.3/Ky 9	九州交響楽団60年史
619.89/Z 3	問題形式で学べるコーヒー学の基礎	764.3/Y 22	山形交響楽団40年史：無から有へ
629.8/N 13	世界の公墓文化紀行	771.5/Ta 71	図解舞台美術の基礎知識
674.3/D 55	デリシャスブランディング	772.514/N 81	ケベック発パフォーミングアーツの未来形
675.2/C 47	サイレント・ニュース：ありふれた日常に潜む巨大なビジネスチャンスを探る	775.4/Y 31/1	宝塚歌劇100年史：舞台編・人物編
675/D 63	まだ「エシカル」を知らないあなたへ	778.253/Ku 14	2001年宇宙の旅
689.21/Su 53/2016	数字でみる観光 2016年度版	778/Ts 24	円谷プロ全怪獣図鑑
689.5/A 62	ディズニーランドの社会学：脱ディズニー化するTDR	780.13/To 71	東アジアのスポーツ・ナショナリズム
689/Y 79/3	文化ツーリズム学	780.67/B 16	サッカースタジアムと都市
699.66/Mu 22	ムジカピッコリーノ：ピッコリーノ号が治したモンスター達	780.69/O 24	オリンピックと商業主義
701.3/F 46	Muses and markets	798.5/C 29/2016	CESAゲーム白書 2016
701.3/Me 48	Être artiste : oeuvrer dans l'incertitude	798.5/D 57	Bloodborne Official Artworks
701.5/B 23	描かれた病：疾病および芸術としての医学挿画	801.03/H 38	ディスコース：談話の織りなす世界
702.06/Ma 26	色彩からみる近代美術：ゲーテより現代へ	801.03/H 48	談話分析のアプローチ：理論と実践
704/Sa 75	現代美術と禅	801.7/Mo 38	翻訳のダイナミズム：時代と文化を貫く知の運動
704/Sa 97	後美術論	801.7/Ts 41	世界の翻訳家たち：異文化接触の最前線を語る
706.921/Ki 24	没後120年菊池容斎と明治の美術	801.7/U 14	文化の翻訳あるいは周縁の詩学
706.921/Ta 67/1	竹内栖鳳のすべて：資料集 vol.1〜3	814.9/Ma 51	「おネエことば」論
706.923/To 46	世界遺産ポンペイの壁画展	835/Mu 78	Grammar in use intermediate
709.1/B 89	文化芸術立国の実現を目指して：文化庁40年史	835/Mu 78	Basic grammar in use
711.6/O 51	動く彫刻：モビールの作り方	836.5/L 86/3	Introduction to academic writing 3rd ed Student book
711.6/Sh 58	新しいモビール：動く造形	910.26/Sh 62	ベストセラーのゆくえ：明治大正の流行小説
720.4/N 37	絵画者：1957-2002	910.268/Ka 91	川端康成詳細年譜
720.67/G 76	名画の経済学：美術市場を支配する経済原理	910.28/Ka 91	川端康成の藝術：純粋と救済
720.79/H 53	観察力を磨く名画読解	910.283/Ta 29	新聞小説史 明治篇
723.346/Mo 81	Koloman Moser : master of Viennese modernism	911.16/O 81	日本近代短歌史の構築：晶子・啄木・八一・茂吉・佐美雄
723.35/B 62	アカデミーとフランス近代絵画	913.6/I 74	天才
723.359/Ma 43	カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解	913.6/N 16	テレビジョン・シティ 新装版
723.37/Ti 8	Titian : the complete paintings	913.6/O 96	明治墮落女學生
723.53/H 86	Edward Hopper (Crown art library)	913.6/Sh 99	ハサミ男
723.53/H 86	Edward Hopper as illustrator 1st ed	913.6/U 13	天地明察
723/H 65	名画の謎を解き明かすアトリビュート・シンボル図鑑	913.6/U 96	葉桜の季節に君を想うということ
726.101/I 68	マンガ・特撮ヒーローの倫理学	914.5/Z 6/1	隨筆百花苑 第1巻-第15巻
726.5/Mi 89	銀河鉄道の夜：画集：新装版	918.6/Se71	体験なき「戦争文学」と戦争の記憶
726.507/C 78	プロの絵師に学ぶイラスト上達テクニック	932.5/Sh 12	シェイクスピア人生の名言
726.507/C 78	Clip Studio Paint Proデジタルイラストテクニック	933.7/G 98	Awakening to Life
726.507/N 78	Undead green blood：仮面ライダー剣葦沢靖アンドドワークス	933.7/R 14	肩をすくめるアトラス
726.507/N 78	仮面ライダー電王葦沢靖イマジンワークスsay your wish... 新装版	933.7/R 14	水源
726.507/Ta 68	ROIDMUDE：竹谷隆之仮面ライダードライブデザインワークス	933.7/Te 79	Frayed
726.6/Sh 36	バムとケロのもりのこや	(全276冊、寄贈による受入を含む)	
727.8/D 69	デザインの腕が上がる凄いいフリーフォント1500		
727.8/D 69	“デザインの現場で役立つ”フリーフォントコレクション1000		

図書館・情報センターの蔵書数および利用状況

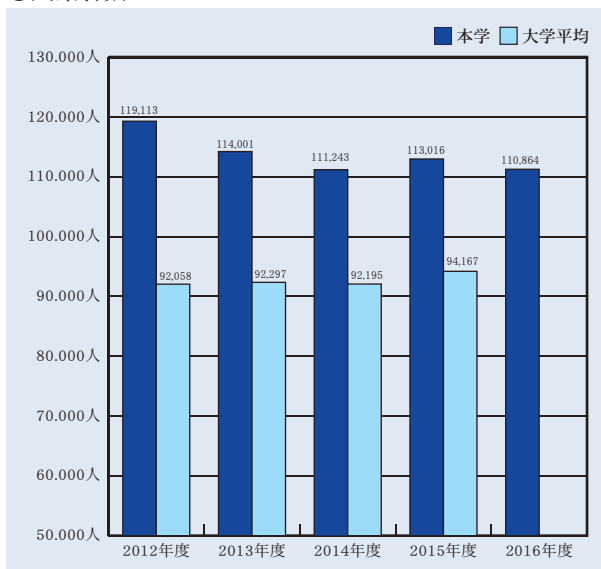
◎蔵書冊数



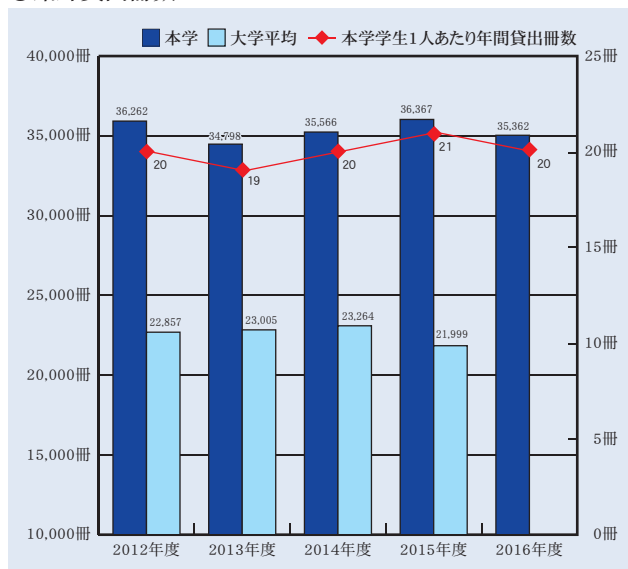
◎受入冊数



◎入館者数



◎館外貸出冊数



※大学平均は、日本図書館協会図書館調査事業委員会[編]『日本の図書館:統計と名簿』より算出

ユニバーサルデザイン絵本コンクール2017 作品募集のお知らせ

ユニバーサルデザインを理念の一つとしている本学では、2010年からユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催しています。ユニバーサルデザイン絵本とは、身体的・知的特性、年齢、文化などを超えて皆と一緒に楽しむことのできる絵本、互いを理解し、共に生きていく社会につながる絵本です。

2017年も、ユニバーサルデザイン絵本コンクールを開催します。形、構成、素材などにとらわれることなく、自由な発想で絵本をつくってください。皆さんからのご応募をお待ちしています。

【募集内容】 ユニバーサルデザイン絵本

【募集期間】 2017年9月1日～2017年10月16日(当日消印有効)

【募集要項・応募票】 本学公式 web サイトに掲載する予定です。

<http://www.suac.ac.jp/>

【応募先・問い合わせ】 お問い合わせは、なるべくメールか FAX をお願いします。

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央二丁目 1-1

静岡文化芸術大学 UD 絵本コンクール事務局(林 左和子研究室)

Tel & Fax 053-457-6178 e-Mail : ehon@suac.ac.jp



昨年度受賞作品